

## 5/1 晴れ Kahiltna glacier へ fly in

5/3に Kahiltna に移動予定だったが、アラスカンパーティーが satellite phone 持っていたので、それを借りてTATに連絡して「今日迎えにきて欲しい」と伝えるも苦戦。電波が悪い。なんとか今日移動できるとのことのでいそいそと撤収用意。1340セスナが音も無く着陸。コーヒー飲んでたのでビックリして吹いた。乗り込む。そして飛ぶ。Ruth の山々、Huntington, Denali,そして今回の目的の Hunter が見える。北壁(North buttress)は圧巻。なにせ1200mの花崗岩の壁である。1, 2, 3 iceband、核心の the Prow,the Shaftも見えた。ぶっ立ち氷岩壁である。

Kahiltna に着陸後、念入りに BC を作り、食料保管用の雪穴も掘る。先入りしていたクライマーによると風は Hunter, Francis 方向からのdownstreamが多いらしいのでテントの入り口はairstripe 側に向ける。うれしいことに昨年一緒に登った内地のクライマーの吉谷夫妻が来ていた。彼らは Ruth から一旦 Talkeetna に戻りそれから Denali(Casin)狙いで Kahiltna in したのだという。再開を祝って夜は飲み会。吉谷夫妻は、まずは West buttress を2週間の予定で行くらしい。そんなわけで夜は飲み会。夜と言ってもクソツタレ白夜だが。

## 5/2 早朝雪、その後晴れ、夜降雪 偵察日

1130より Mt.Hunter North buttress へ偵察へ。2時間で壁基部へ着く。とても寒い。出だしのシュルンドは年々でかくなっているらしい。Maggs start が取り付きやすそうだ。(Moonflower 右側)

その偵察が終わったら Mt.Francis の descent の East ridge へ偵察へ。途中で良い登攀ラインを見つけた、既存のルートではないが冒険的・探検的なクライミングもしてみたいのでこれを登ることとする。2 hr で descent の East ridge 下降路へついた。もう帰りはガスガスになっていた。Base へもどると岡野さんというフェアバンクス在住の元日本人女性と会う。デナリへ単独で行ったが 11.000ft camp でクレバスにはまり7時間かかって脱出して、敗退してきたようだ。明日彼女は fly out 予定。私たちは Mt.francis の new route 開拓へ行く予定だが明日から2~3日雪(likely snow)らしい。しばし停滞の可能性か。

## 5/3 朝から雪、1500より晴れ ホットケーキパーティー

ホットケーキパーティー、隣のテントの岡野さんも呼んで話しまくる。walmart のホットケーキミックスは美味。1/4ほど使用した。1600から airstripe のライン作りに呼ばれる。だがディナーにパスタを作ったので行かない。パスタソースは待ってくれるが、茹でたパスタは待ってくれないのだ。1930なのに今夜は暖かい。だが Hunter North buttress はまだ寒く、今季はまだ誰も登っていない。もう少し暖かくなるまで只時を待つ。TAT フライトマネジャーのリサ(ベースに常駐)に2000に天気を聞きに行く。なんでも今年は12年に一度の異常な寒さらしい。

5/3 snow windy[night]

5/4 snow windy

5/5 cloudy

5/6 snow

5/7 good

明日登れないジャン！ でも AM0500 起床。準備しないヤツには幸運がきても掴むことは出来ないのだ。

## 5/4 晴れ Mt.Francis

AM0500 起床。予報と違って晴れている。目をつけていた Mt.Francis south face new line へ向う。1hrで取り付き。シュルンドを注意深く越えて急峻なルンゼを3ピッチ程駆け上がる。右岸に KB をぶちこみビレー点とする。

1 P 目: dz、AI 4、ベルグラ状。プロテクションはサイドに走るクラックにカムを決める。楽しい。

2 P 目: 谷、AI 4、同じくベルグラ滝。

3 P 目: dz、同じく

4 P 目: 谷、雪壁&その下のスラブ状の岩。

5 P 目: dz、M5。抜け口のリップが悪い。クロールムーブでとっかかりを探す。

あとは false summit までロープをつけながら同時登攀。なぜならヒドウンクレバスが沢山あるからだ。途中で谷が「斜面に亀裂入ったあ」との場面も。やっぱり山はいろいろな危険要素がある。2時間ほどで false summit へ。そこから true summit までさらに2時間強。標高3400mくらいなので多少息があがる。ピークからは Denali、Hunter がみえた。Hunter の壁抜けてからの斜面、クレバス帯も悪そうだ。

ここから east ridge へ descent。雪崩れそうで緊張する。最後のプラトーへの降り口は上から見て右側に行くと安全。1 day の登山であったが new line を開拓できてよかった。この山で亡くなった白石淳也氏と栗原次郎氏のメモリアルルートとしたい。

「Jumping Jack Flash a.k.a JJF AI4 M5」 JJ は淳也と次郎の J でもある。

タイム:

0730: 登攀開始

1300: 偽ピーク

1600: Francis ピーク

1930: east ridge 基部

2040: BC 帰幕

5/5 レスト&Hunter Ramen couloir( west ridge のバリエーション)の用意 晴れ

今日は晴天！明日より出発の Hunter west ridge の準備。午後、髪を洗いヒゲを剃っているとニコやかなおっさん登場&話しかけてきた。Steve House だった。7日間の予定で我々と同じく Moon flower に行くそうだ。会えて感動。

夕方、リサに天気を聞きに行くと、Westridge には、2 P すでに入っているらしいこと、我々の Ramen couloir にはしばらく人が入っていないこと(数年？)、氷河が悪いこと、天気は数日持つことを教えてもらった。取りつきまで遠いのでスキーを貸してくれる、とのことだったがビンディングが合わないのでやめた。

そうそう、なぜ Hunter 北壁の前に、西稜に行くのかというと北壁を抜けた後の descent の確認と高度順応を兼ねてである。あとは山で泊まりたい。壁に対するプレッシャーも減る。

west ridge は Hunter で一番容易なルートであるが、決して簡単ではない。成功するのはせいぜい年に6パーティー程度であるそうだ。テクニカルではないが総合力が必要なルートである、との情報がある。が、何故だか緊張はしない。いつもだが、ヤバそうだったり、危険を感じたら降りればよい。所詮自己満足の世界、誰にも認められない、評価されない、そしてそれは実に気楽なことで幸せなことである。要するに自分の出来る限りにことを出来る限りやって、壁に全力でぶつかれば良いのだ。ただそれだけ。以下、天気予報

5/6 partial cloudy

5/7 partial cloudy

5/8 mostly cloudy windy 25~35m/s

ちょっと風があるかもしれないが、現地判断だ。

2030、今日も冷え始める。日中に髪を洗ったときは半そでで暖かいのに髪はカチンカチンに凍った。低温と強い日差しと乾燥がもたらす不思議な天気だ。

5/6 Ramen couloir へ 晴れ→曇り

0700 起床、0900 出発、1030westridge(正規の)取り付きを通り過ぎる、1200Ramen couloir の glacier 入り口、1700Ramen couloir の手前のプラトーで幕営。

Ramen glacier、、グサグサなり。奇跡的に繋がっていたのか、繋がっていなかったのか。途中、ヒドゥンクレバスに2回ハマる。消耗を避けて速めに bivvy、なぜならこの山行の後に北壁が待っているのだから。

氷河は本当にグサグサで descent には向かない。今回はスノーシューでアプローチしているから避けられているクレバスもあるが、descent 時はアイゼン or ツボ足なので多分クレバスに落ちて死ぬ確率が高い。

氷河でなく右岸の岩稜を乗り越したほうが危険性も少なく早そうだが、それなら正規の westridge に行った方が早そうだ。

そもそもなぜ Ramen couloir ルートにしたのかというと、この couloir は一気に900m登高できるからだ、ということは descent 時に一気に標高を下げられるから。コレは嵐の時などは心強い。

5/7 Ramen couloir (West ridge var)② 晴れ

0420 起床。2人用ゴアライトは狭い。0600 出発。クーロアールをひたすら登る。標高差900m近くあるクーロアールだ。ロープはつけて、中間支点を取りながら慎重に駆け上がる。左岸はセラック崩壊に巻き込まれる可能性があるので右岸のロックバンドを2つ越えて行く。少し時間はかかるが safety を選ぶ。気をつけてないと命は一瞬で無くなる。1330Ramen col (3240m)にでる。ここは west ridge との合流点だ。なんてこったい、west ridge ノーマルからのトレースが何もない。雪庇を削って bivvy できるが、まだ時間が早いのでそこから急斜面をトラバースして c3435col で幕営。風除けの壁を南側に作る。c3240 コル～c3435 コルまでは標高差こそないもののブラックアイスの上にグラニュースノーが 30cm ほど乗っていてプロテクションを取るのに時間がかかる。そしてザクは heavy、west ridge に先行 P が 2 P いることを聞いていたのと、Ramen glacier は下降に向かなく、危険なので通りたくないという思いがあったので、帰りは west ridge ノーマルのトレースを使わせてもらって下山しようと思ってスノーシュー・ポールを担ぎ上げたのだが west ridge にはトレースがないのだ。ヤツら失敗しやがって、と思ってしまった。やはり他の P とかを当てにしては良くないものだ。west ridge の稜線を見てみるとクレバスでグシャグシャで悪そう。スノーシューおいてくればよかった。明日はウエストポーチ(ザック雨蓋改造)に替え手袋、行動食、テルモス、チリ紙を持って Hunter 頂上アタック。3000m をすぎってから息があがりやすい。そんなこともあって今日は少し多めに食べる。

5/8 Hunter attack chance 晴れ

オープンザファスナー、フォーレイカーもくっきり見える、かさ雲もない。ウエストポーチに犬の写真を入れてアタック開始。テント出た直後、いきなりクレバスにはまる、クソ。コイルは30mショートロープとし、バスバスあがる。途中シュルンド、クレバス乗り越しなどでビレー。持ってきたスノー

バー2本は大いに役立つ。3rd くらいのアイスのアップダウンもあり。13000ft(3900m)でプラトーに出る。思わずヒャッホー！なぜなら、Hunter ピークが目の前に見えるのだ。あとはひたすら登るだけだがなかなか着かない、アラスカの山はデカイ。そしてプラトーでも谷がクレバスに落ちこちる。アラスカの山はヤバイ。高度は 4000 m を越えた。域が荒くなる。なるべく早く、ゆっくり動く。ようやく summit ridge を登りだすがなかなか着かない。斜面にサッカーボールくらいの大きさに見えた雪玉は、隣を通り過ぎるときには5mほどのセラックのかけらになっていたりする。山頂近くになると風がものすごく強く、そして冷たい。鼻の下が痛い。だが山頂にでると無風になった。疲れているが嬉しくて思わず谷と抱き合った、30歳の男同士である。

写真を撮って、descent。帰りはリッジ全体が見えてルートファインディングもやりやすい、南面側が descent しやすい。2hr 弱で C2 bivvy 地点の c 3450 へ。帰りは早い。ここからテントと意味のないスノーシューを担ぎ上げて1000m近く下降。トレーニングである。Extra heavy weight。おそらくここまでスノーシューを担ぎ上げた人間はいないだろう。バカだ。そこから5hrで Ramen glacier の一昨日泊まった C1 へ。まだ時間はあるが、消耗を避けて幕営する。天気はすこぶる良く、テントの周りにストック、スノーシュー、ロープで物干し竿を作り、衣類を乾かす。日向側はあっという間に乾き、その裏側の日陰側は凍っている。相変わらず不思議な現象だ。

夕食を食べ、バターとペミ缶も多めに使用する。ホットチョコにミルクを多めに入れて、また放射冷却のキツイ夜を越えなければならない。だが、心の中は「登れてよかった」という安堵感、満足感で暖かいような気がする。

0400 起床、0520 行動開始 C2 発、0930peak、1150C2 戻る、1730、C1 へ戻る。

## 5/9 Ramen couloir descent 晴れ

寒いぞアラスカ。凍えるほどコールド。昨夜0300爆風。セラック崩壊があったようだ。テントや外に置いた装備が雪まみれだ。長い時間雪煙が舞っていた。

さて、どうやって帰るべか。

3日前に越えた氷河はヒドゥンクレバスだらけなので他の安全な下降ルートを探らないと、この下降路は北壁より peak 登頂時は使用する option にはならない。すなわち、今回の目的である下降路の確認にはならないのである。昨日 Hunter 登頂したものの、本来の mission は下降路の確認であるのだ。3日前はクレバスにはまりながら奇跡的に抜けたセラック帯を、北壁より下山時にツボ足で通過することは死ぬ確立が高い。このクソ氷河の右岸側のルンゼを詰めて、支稜を乗り越え、そこからクソセラックをかわせないか画策してみることに。ルンゼは3本あり、真ん中のもっとも顕著なモノをつめる。2時間ほどでルンゼを詰めて雪庇を壊して乗り越すことが出来た。何とか繋がっていたが1本下のルンゼが正しかったかもしれない、elevation gain も無駄にならない。一本上のルンゼは絶望的だ、ウェリ・シュテック用のラインとして残しておこう。

ルンゼを降りて、やっと安全圏にはいった。クソ崩壊氷河をかわすことができたのだ。とりあえず休憩、すぐにお湯をわかし余った砂糖で甘いホットミルクを補給して、あとは3時間のしのし歩くとセスナのスキーの跡が見え始め、そこは Kahiltna BC だった。リサに戻ってきたことを伝える&明日からの天気を聞くとオレンジ2個を登頂お祝いにくれた。west ridge へ行った他 P は敗退してきたらしい。天気は2日後、3日後は雪らしい。フォーレイカー、デナリ、ハンター、どの山もいつの間にかかさ雲がかかっている。夕方(もちろん明るいが)ものを乾かしつつジャガイモ、にんじん、玉ねぎ、変色した肉、にんにく、全て多量でカレーを作る、そして酒で乾杯、もちろん飲むのは Hunter ! (ウイスキーです。)

今回の山行、消耗せずに下降路の確認が出来てよかった。明日はレスト、明後日は北壁の準備、明々後日は北壁アタック予定である。問題は天気とこの寒さ。

トレースがなくて大変だったが、今シーズンの Hunter 登頂一番乗りだったらいい。

5/10 rest ガス→曇り→snow

朝起きると谷がホットケーキを作っていてくれた。昨日の帰り道に私が「ホットケーキ・ホットケーキ…」と繰り返していたからだ。やった。おかげでゴージャス気分な1日だ。この日は完全 off。食って本を読み寝る。パツとしない天気時々外をぼんやり見る。

North buttress へ行っている、Steve、Tim は下山せず。ガスっているのにセスナ昼ごろ離発着していた。今日はカーボローディング。キッチンテントの中央(ブス台下)が再度陥没してきた。そのうち直そう。

5/11 rest&準備 ガス→晴れ→ちら雪・晴れ

ハンター北壁はうっすらガス。Steve氏戻ってきたので info もらう。the Prow のピッチは状況×(難しい)、その上の the Shaft(雷電のナイルみたいな氷)は状態良いそう。昼は一昨年亡くなった白石君、栗原さんのために Mt.Francis の見えるところでビールを飲みに行く。栗原さんはビールは飲まないそうだったのでオレンジジュースでも持っていくべきかと思ったがビールでいいでしょ。

黙祷&谷と黙って山々を見る。

1600頃 hunter で大きなセラック崩壊あり。すごい雪煙だ。壁基部にデポする、スノーシューとポールが埋まってなくなりそうなのでリサに長いフラッグを1本貸してもら。そして明日のギアを用意した。キャメ#0.3~0.4×2セット。#0.5~3×1セット。ピトンKB1, 2, 5、ユマール1セット、アブミ1、シングルロープ60m、ダブルロープ60m、スクリュウ10、あとは生活道具と食料。

1900、天気予報。明日から5日間は晴れるらしい。明日のアタック準備OK。心配ないがいつもより落ちつかない。白夜のせいかな。

5/12 North Buttress 晴れ→深夜雪

天気は良い、気温は高め(それでも-10℃以下)で夜にした尿が凍っていない。シリアルかつこんで出発。装備はテント、マット、シェラフ、マット、5 day 食料…と heavy&Strenuous。停滞もできる。ユマールと荷揚げ、もちろん背負えるところは背負って peak を目指す(通常は壁だけを登って帰ってくるらしい、壁抜けた後も悪い)。

3ピッチずつ交代作戦で行く。

1 P、dz: ルート直下より右側から取り付く。ベルクシュルンド乗り越してピナクルでビレー。

2 P、dz: 左側へトラバース本来のルートへ。3rd ice を60mいっぱいロープを伸ばす。

3 P、dz: 3rd ice

4 P、谷: Klewin couiroir のおいしいところ。その後トラバース。スノーリッジを1本こえてビレー

5 P、谷: 右トラバースしてして70°位のランネルへ。

6 P、谷: 70°のランネル、快適、トラバース時のフォローは重荷に喘いでコレもまた楽しい。

7 P、dz: ランネル左側へ。ふくらはぎ痛い。傾斜もきつくなってきた

8 P、dz: M5 セクション、頭上にプラウが見える。ランナー取れず。谷が「ガンバ！」と言うので頑張った。その後雪壁トラバース。大いにランナウトする。足の雪は崩れてハングしてくるし、くされ氷にキメたスクリュウは頼りない。プラウの直下(ちょっと登ったところ?)にでてビレー。最後まで結構悪く、全体的に悪いピッチだった。

9 P、dz: The prow M6。プロテクション取りづらい。クラックに氷と雪が詰まっているからだ。クラッ

クの抜け口に氷があるが、スクリュースキめてもフォールしたら丸ごとボロンに違いないのでさわらず。

そこを乗り越せば緩傾斜になのだが…。体を引き上げてベルグラにちょこんとひっかけて体を上げる。ちょいアイゼンでカリカリしてもう一手奥の氷に刺すとベルグラが崩れて落下し谷の腕にあたる、大変申し訳なくも思いつつピッチを伸ばす。

ユマールで上がってきた谷が、「腕がしびれる」ということだったので「一旦下山するか」と聞いてみると「いける」とのことで続行。そこから10P目の隣の氷まで斜めに懸垂する。10P目に到達した谷から叫び声、「アイゼン壊れた、前爪が再度ない」とのことで「一旦下山するべ」と。

すばらしい早さで順調に登っていただけに残念だが、ちょうどそのころから降雪しだした。その後すさまじいチリ雪崩に。7回ほど懸垂して基部へ。アバラコフは3回作った。他は残置で懸垂したり、クライムダウンしたり。途中暗くなり、ヘッ電をザックからだそうとするも、上から来るチリ雪崩でザックのふたがなかなか開けられない。それくらいひっきりなしに雪煙が我々を覆った。

テントに戻ると翌日の0330だった。敗退である。視界は0。水用の雪を取ってきてラーメンを口の中に突っ込む。まだ終わってない。

### 5/13 完全レスト snow→くもり

1000に起きて水飲み、食いまくる。次回の作戦は light&Fast で壁のみ抜ける作戦で行く。時間がないからだ。ツェルト、マット、3日分の食料、火器、荷物は少ないのでクライミングを楽しむことはできるが頂上を踏む計画ではないというのが残念だ。谷の腕が痛いというのが気がかりだ。

### 5/14 準備 曇り

3～4日後に嵐が来るらしい。だが2.5日で登れるはず(壁だけは)。本日はカレー、すでに肉は腐っているが問題は無い。

1900の天気予報では風が明日から強くなるらしい。だが明日から2日間は晴れるそうだ。明日出発できる限りのことをできるだけやるってこと。そうするしかない。

谷が緊張してピリピリしている。本でも読んでいつの間にかシェラフオープンでウトウト。さみしいな。

### 5/15 Hunter again スカッ晴れ

0315起床、0420出発。野菜とツナを煮込んでおいたものをラーメンに突っ込み流し込む。寒い。0600取り付き。天気が悪くなる予報なので crux の Prow までは同時登攀で行き、天気が良い間はなるべく寝ないで登る作戦。ベルクシュルンドを越え、氷の取り付きまできてスクリュースでようやく1stピンをとる。ここから気合を入れなおして5P目まで一気に登る…、と意気込んでいたら谷から「アイゼン壊れたー」とのこと。「じゃあ降りよう」と返す。谷がいるところまで戻って修復可能かどうか見てみると、壊れたのではなくクランポンの調整ミスで前爪がグラグラ(アイゼン本体の爪がはまるべきところにはまっていない)だった。仕方ない。誰もこういうことがある。

谷はひどく落ち込んでいた。先ほどまでの早朝の buttress は霧の中でもくっきり見えたのだが、帰路に振り返ると、霧の中に霞んで見えるから不思議だ。人は見たいものを見る。そして見えないものは見えないのだ。BCに戻り、お湯をゴクリと飲み身の振りようを考える。

夕方、吉谷夫妻が Denali から帰ってきたので談話すると、幾分か谷の表情も和らいだので良かった。吉谷夫妻は高度障害で敗退した話を聞かせてもらった。

### 5/16 snow, no wind

0800起床、フライトマネージャーに air plain 飛ぶのかどうか聞きに行く。「No、視界ないから飛べない、飛んだら call するから」とのこと。朝:パスタ、昼:レトルト玉子丼、夕:カレー…湿雪である。ジャガイモ使い切った、肉は、腐った肉はあと一回分、玉ネギ3個、ニンジン200gくらい、米0.5合、パスタ600g。養老孟司の本は面白いが、字が多いし時に難解なのが残念だ。

夕方より再度吉谷夫妻テントへ、今日一日中 snow。明るいがもう2230を回っている。早く寝なければ、といつも思っていたのだが今夜はもうその必要はない。

今回は、もう勝負することはないのだから就寝時間を気にして明日に備えるということとはしなくてもよいのだ。今回はもう目標はない。Hunter 北壁は登れなかった。力を出し切って登れなかったのではなく、力を出し切る前に終わってしまった。「楽しい壁！」と思っている間に壁を離れなければならないのは口惜しいとしかいいようがない。もう少しで、条件が揃えば手に入った壁。

また来よう。今日は Alaska に来てから一番雪が降っている。bandも 4hpa 急激に下降している。風もなくしんしん降る雪、日本を思い出す。今夜は Alaska の白夜を黙って眺めていようと思う。

昔の恋人を思い出したりする。Mt.Francis で亡くなった栗原さん、白石君、また来るよ。

明日はセスナ来るのかな…はあー…お茶おいしい♪

## 5/17 snow

時々対岸の山が見えるが、almost snow。朝、カレー雑炊、昼、ペペロンチーノ(肉無し)、夕、ナポリタン(肉入り)。夜プリンを作る。本は残り一冊。養老孟司は難解で2回読んだ。

谷の気分もすっかり回復したようで良かった。昼には滑走路作り。

## 5/18 fly out

滑走路作り、1300に fly out。吉谷夫妻に見送ってもらう。4台のセスナが一気に来てさらば Kahiltna って気分だ。Hunter 北壁が見える。「リベンジか」って思う。

視界は悪く、雲がかかっているが明るく感じる。時々鋭く突き上げる山が見える。何を考えている、俺…、次は何を…。